
調査年報 25

平成 24 年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

調査年報 25

平成 24 年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



千歳市 キウス11遺跡



長沼町 幌内D遺跡



厚真町 オニキシベ1遺跡



厚真町 朝日遺跡 P-69 調査状況



厚真町 朝日遺跡 P-47 人骨出土状況



厚真町 朝日遺跡 P-47 人骨漆腕輪装着状況



せたな町 都遺跡



北斗市 当別川左岸遺跡



木古内町 釜谷 8 遺跡



木古内町 大平 4 遺跡



木古内町 釜谷 8 遺跡出土トランシェ様石器



福島町 館崎遺跡出土土偶



厚真町 朝日遺跡出土石斧・土製品



厚真町 朝日遺跡出土玉類



厚真町 朝日遺跡出土縄文時代晩期注口土器



せたな町 都遺跡出土遺物

目 次

口絵

目次

北海道史略年表

平成24年度の調査

1	調査の概要	1
2	調査遺跡	4
	千歳市キウス11遺跡	4
	長沼町幌内D遺跡	6
	厚真町オニキシベ1遺跡	12
	厚真町朝日遺跡	18
	せたな町都遺跡	24
	北斗市当別川左岸遺跡	28
	北斗市押上1遺跡・福島町館崎遺跡（現地一次整理）	32
	木古内町釜谷8遺跡	34
	木古内町大平4遺跡	38
3	現地研修会の報告	42
4	協力活動及び研修	44
5	平成24年度刊行報告書	47
6	組織・機構	48
7	職員	49

北海道史略年表

本州の時代区分		年代 (西暦)	北海道の時代区分	平成24年度調査遺跡の主な時期
明治～平成		A. D. 1900	(近代・現代)	
江戸時代			近世	アイヌ文化期
室町時代			中世	
鎌倉時代		A. D. 1200	擦文文化期	
平安時代				
奈良時代		A. D. 800	オホーツク文化期	幌内D
古墳時代				幌内D
弥生時代		A. D. 400	統縄文時代	朝日 キウス11
縄文時代	晩期	B. C. 300	縄文	キウス11
				朝日
	後期	B. C. 1000	縄文	キウス11
				都・当別川左岸・大平4 釜谷8・オニキシベ1・押上1
	中期	B. C. 2000	縄文	都・当別川左岸・大平4・オニキシベ1・押上1
				館崎
	前期	B. C. 3000	縄文	館崎
大平4				
早期	B. C. 4000	縄文	釜谷8	
			草創期	
旧石器時代	B. C. 12000	旧石器時代		
	B. C. 20000			
	B. C. 30000			

平成24年度の調査

1 調査の概要

今年度は、道内6市町に所在する8遺跡で発掘調査を実施した。このうち3遺跡は前年からの継続調査である。前年まで発掘調査を終えて整理作業のみを行ったのは19遺跡で、長沼町南六号川左岸遺跡・木古内町札苺5遺跡・札苺6遺跡・木古内2遺跡以外は継続の整理作業である。発掘調査を工事原因別に見ると、国土交通省北海道開発局の各開発建設部が実施する道路工事に伴う調査が4市町5遺跡、北海道（総合振興局建設管理部）が行う道路工事・ダム建設に伴うものが2町の3遺跡である。

以下、調査成果を時期順に略述する。各遺跡の特徴的な事項を示すようにし、時期の重複する遺構は始まるの時期を目安に記述する。なお、遺構などの（ ）数字は員数である。

旧石器時代 今年度の調査では出土していない。

縄文時代 早期 釜谷8遺跡では、主に調査区北側の大坪沢川沿いに、頁岩のフレイク・チップ集中(36)が検出された。50,000点を超えるフレイク類の中に200点以上の「トランシェ様石器」が存在しており、スクレイパーの製作址とみられる。ここからは中葉のノダップⅠ式や七飯町国立療養所裏遺跡Ⅰ群といった、爪形文・貝殻縁文が施された土器が出土している。

都遺跡では中茶路式、大平4遺跡とオニキシベⅠ遺跡では東銅路Ⅳ式といった後半の土器が少数出土している。

前期 大平4遺跡でフレイク・チップ集中(8)が検出され、前半の春日町式土器が出土している。オニキシベⅠ遺跡では静内中野式土器が少数出土している。

中期 大平4遺跡で後半期に属する堅穴住居跡(9)や土坑(3)が検出されている。堅穴住居跡は平面卵形で先端ピットと周溝を持つ。伴う炉は地床炉(3)と石組炉(5)がある。この堅穴住居跡の周辺からは凝灰岩製の三脚石器が14点出土している。土器は大安在B式～ノダップⅡ式土器がみられた。

当別川左岸遺跡でも平面卵形の堅穴住居跡(4)が検出され、うち1軒は先端ピットと周溝を持つ。中期から後期にかけての土坑(12)、焼土(3)も検出されている。土器は門筒土器上層a・b式・見晴町式・大安在B式・ノダップⅡ式土器が出土している。釜谷8遺跡でも門筒土器上層式が少量出土している。

都遺跡では後半中ごろから後期前葉の堅穴住居跡(10)、土坑(32)、石組炉(9)などが検出された。堅穴住居跡には平面卵形のものもあり、炉は地床炉と石組炉とがある。

オニキシベⅠ遺跡ではこの時期とみられる堅穴住居跡(5)、Tピット(13)が検出されている。Tピットは中央の沢状地形を中心に溝状のもの(10)が分布し、調査区東側には坑底に杭列のある小判形のもの(3)がみられた。中葉から後半の土器が出土している。

後期 都遺跡の調査区東部で前葉の盛土遺構(1)とこれを切る堅穴住居跡(1)を確認した。盛土遺構は調査区外の東西にも延びる幅20m前後の帯状を呈し、涌元式・トリサキ式土器が多く出土する。

釜谷8遺跡では、南側の沢沿いにまとまって堅穴住居跡(2)、フラスコ状を含む土坑(21)、焼土(17)などが検出された。前葉の天祐寺式～涌元式土器が多く出土している。

当別川左岸遺跡ではトリサキ式、大平4遺跡では大津式～ウサクマイC式土器が出土している。オニキシベⅠ遺跡では初頭の土器が多く、キウスⅡ遺跡には中葉の土器片の集中がみられた。

晩期 朝日遺跡は厚真川右岸段丘の丘陵からのびる緩斜面に立地し、土坑(62)、焼土(46)などを調査した。土坑はほとんどが墓とみられ、23基で人骨とその痕跡を確認した。うち1基は8～11人の合葬墓であった。副葬品は少ないが、ヒスイ製の勾玉、漆塗腕輪などがあつた。包含層からは突瘤と爪形文が特徴の土器や美々3式(幣舞式)、タンネットU式などの土器、土偶、コハク製の玉類などが出土し、イ

ノシシの歯や大量のシカ骨なども検出した。

キウス11遺跡では前葉と後葉の土器片の集中と双礫(2)が検出された。大平4遺跡では末葉の土器が少数出土している。

縄縄文時代 朝日遺跡で土坑墓(7)が検出された。後北式の様相を残す北大Ⅰ式の土器を伴ったもので、刀子やガラス玉が副葬された墓もみつまっている。

幌内D遺跡では、北大ⅠおよびⅡ式土器の時期の土坑(170)が検出された。ほとんどが墓とみられ、径80cm前後の円形(160)が主体である。砂岩等の礫が坑中に充滿したものもある。副葬品は少ないが、土器や錐状鉄製品などが出土している。楕円形(10)の土坑では四隅に柱穴があるものもみられた。これらの土坑は調査区南側にまとまる傾向があり、特に西側段丘縁で高密度である。

キウス11遺跡では前半の土器片の集中が検出され、少数だが後半の土器も出土した。

オホーツク文化期 今年度の調査では検出していない。

樺文文化期 幌内D遺跡で堅穴住居跡(4)を調査した。3軒は2mほどの隅丸方形で中央に炬があるものの、1軒は前半期のもので一辺約4m、竈・外柱穴が確認された。一辺2～3mの四本柱の掘立柱建物跡(2)も確認している。また、調査区北半に列をなすように分布する長方形の土坑(15)が検出された。墓とみられるが副葬品はない。キウス11遺跡では土器少数が出土した。

アイヌ文化期 今年度の調査では検出していない。

整理作業・報告書作成 道央圏連絡道路関係では、平成15～21年度に調査したキウス5遺跡の第Ⅱ黒色土層と旧石器の整理がまとまり最後の報告書を刊行した。祝梅川上田遺跡はアイヌ文化期の集落跡や旧石器時代の整理がまとまり、祝梅川小野遺跡・梅川1遺跡も第Ⅰ黒色土層の整理を進め、それぞれ報告書を刊行した。祝梅川小野遺跡・梅川1遺跡の低湿部や梅川4遺跡の第Ⅰ黒色土層についても保存処理作業・整理作業を進めている。昨年度調査した南六号川左岸遺跡も報告書を刊行した。

石狩川改修工事関係では、多数の縄文時代晩期～縄縄文時代の土坑・焼土と土器を検出した対雁2遺跡の11冊目の報告書も刊行した。

旭川一紋別道関係の白滝遺跡群では、旧白滝3・5遺跡の整理作業を進めている。

函館一江差道関係のうち北斗市館野地区の遺跡の整理作業では館野6遺跡本線部分、茂辺地木古内間では札町5遺跡の報告書を刊行。館野2遺跡C地区と館野6遺跡補償道路部分の整理作業も展開している。昨年度、縄文時代中期の堅穴住居跡や大珠などを検出した木古内町札町6遺跡も整理作業が進行している。

北海道新幹線関連では昨年度調査した木古内2遺跡の整理がまとまり報告書を刊行した。木古内遺跡、大平遺跡はセンターにおいて整理作業を進めた。昨年度まで縄文時代前期後半～中期前半および後期前葉の盛土遺構等を調査した館崎遺跡と、縄文時代中期末～後期前葉の集落と盛土遺構を調査した押上1遺跡の整理作業は、木古内町内に借地して一次整理を行い大量の土器・石器に対応した。同時にセンターにおいても整理作業を展開した。

平成21～23年度に調査したトースムボロ湖周辺堅穴群の整理作業も展開中。縄文時代早期・前期の堅穴住居跡、オホーツク文化期の墓と掘立柱のような土坑、アイヌ文化期の集落関係など多様な内容のなか、鉄製品の保存処理、動物骨などの同定も進めている。

2 調査遺跡

千歳市 キウス11遺跡 (A-03-288)

事業名：道史圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道開発局札幌開発建設部

所在地：千歳市中央410-10

調査面積：2,523㎡

調査期間：平成24年9月3日～11月2日

調査員：鈴木 信、菊池慈人、山中文雄

調査の概要

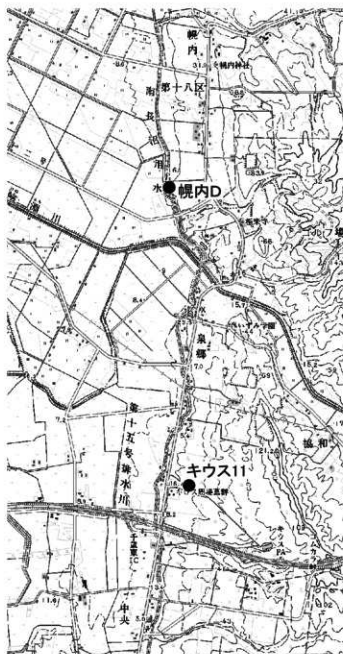
キウス11遺跡は、道東自動車道千歳東インターチェンジから東北東へ約900m、馬追丘陵西側緩斜面の標高21～24mの地点に位置する。調査範囲は丘陵を開析する小河川の一つ、チャシ川（モウシ川）の源頭部北側に当たり、現況は山林である。本遺跡から西へ約400mの地点には、国指定史跡「キウス周堤墓群」がある。

基本層序は、I層：表土・耕作土、II層：樽前aテフラ（Ta-a）、III層：第I黒色土、IV層：樽前cテフラ（Ta-c）、V層：第II黒色土、VI層：漸移層、VII層：黄褐色土である。

遺構と遺物

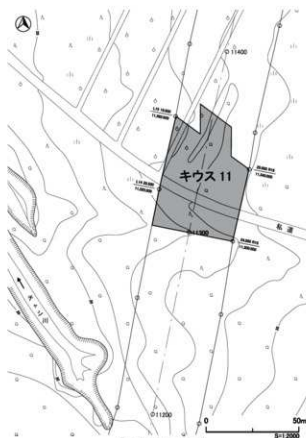
遺構は土器集中4か所、双塚2か所である。土器集中1は、縄文時代後期末葉～晩期前葉、2は縄文時代前半、3は縄文時代晩期後葉、4は縄文時代後期中葉の破片のまとまりで、1はIII層とV層、2・3はIII層、4はV層から出土した。双塚1は片麻岩と泥岩、2は片麻岩と安山岩の組み合わせで、どちらも一方の塚が半割されていた。1・2ともIII層下位から出土しており、時期は縄文時代晩期と推測される。

遺物は土器約900点、石器等約70点である。土器は、上述した土器集中の時期のもの以外に、続縄文時代後半、擦文文化期のものがわずかに得られている。石器は、磨製石斧の刃部破片と石鏃が多い。

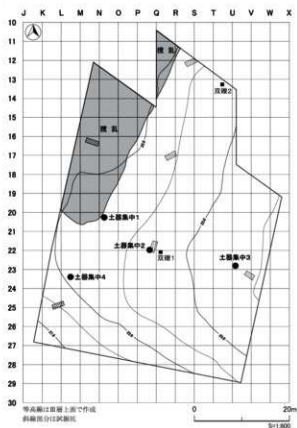


遺跡位置図

国土地理院の数字地図50000(地図測量)『国図』(平成13年発行)を使用



遺跡周辺の地形



遺構位置図



調査状況



土器集中 2



磨製石斧出土状況

長沼町 幌内D遺跡 (E-17-4)

事業名：道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財調査

委託者：北海道開発局札幌開発建設部

所在地：夕張郡長沼町幌内2032-1外

調査面積：3,038㎡

調査期間：平成24年5月7日～7月6日

調査員：鈴木 信、菊池慈人、鈴木宏行

調査の概要

幌内D遺跡は長沼町と千歳市の境界から南長沼用水に沿って350mほど北側の標高18m前後の低位段丘上に立地している。当遺跡は縄文時代・擦文文化期の土器片・黒曜石石器などが東西50m・南北80mにわたって分布することが知られていた。平成19年には遺跡西側の隣接地で国営かんがい排水事業道央用水（三期）地区道央注水工に伴う南長沼用水西側地点の調査が行われ、縄文時代後半～擦文文化期前半の遺物が出土し、段丘崖下の沖積地にも遺跡範囲が及ぶことが確認されている。

調査は昨年引き続きのもので、昨年度調査区の西側と北西部に及ぶ。調査区はそのほとんどが耕作によって地表から40cm程攪乱を受けており、段丘の西側縁辺のみ遺物包含層が残存していた。耕作範囲については遺構確認調査を、包含層残存範囲については通常発掘調査を行った。

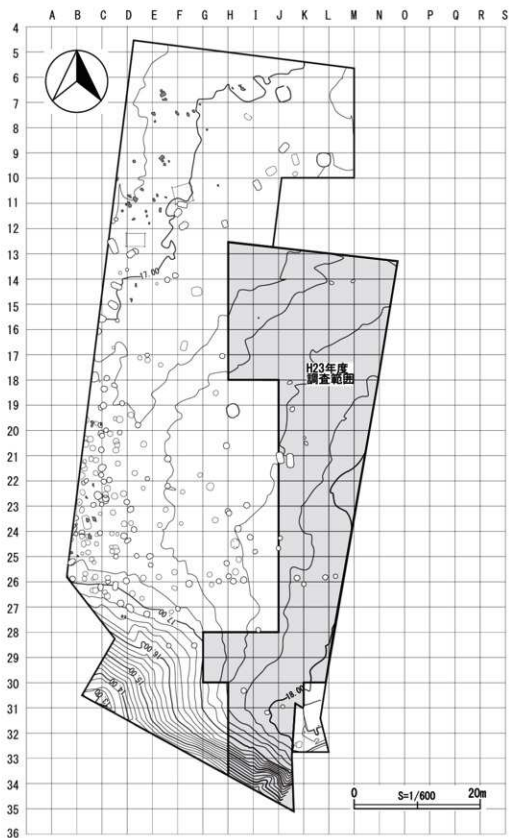
基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒色土、Ⅲ層：褐色土、Ⅳ層：黄褐色土である。Ⅰ層には耕作等の攪乱が見られない段丘縁辺部に樽前a軽石が堆積していた。主な遺物包含層はⅡ層で、一部Ⅲ層からも遺物は出土している。遺構確認範囲ではⅣ層を掘り込む土坑を検出したが、表土除去の際に耕作土中から遺構に伴うとみられる集石があったことから地表下40cmより浅い土坑の存在も想定される。

遺構と遺物

遺構は竪穴住居跡4軒、土坑・土坑墓185基、小ピット8基、焼土47か所、集石2か所、灰集中2か所が検出された。竪穴住居跡は二種類あり、一つはH-1・2・4の3軒で、直径2m程度の隅丸方形、推定深さ40～50cmで竈は無く、中央に炉跡がある。もう一つはH-3で、調査区内に半分程度検出されたのみだが、直径4m程度の隅丸方形、深さ50cmで長軸より偏った位置に南向きの竈がある。両者とも竪穴内部に柱穴は確認できなかったが、後者（H-3）には外柱穴が確認された。前者は擦文文化期の土坑や掘立柱建物跡が検出された調査区北側に、後者はそれらとは離れた調査区南東端に位置する。いずれの時期も擦文文化期とみられるが、H-3はその前半期である。

土坑・土坑墓は円形・楕円形・長方形があり、円形・楕円形は縄文時代北大式期、長方形は擦文文化期のものである。円形は160基ほどで、直径80cm程度が主体であるが深さは推定で40～70cmと偏差が大きい。坑内には直径20cm程度の砂岩を主体とする転礫が充填されるものがあり、上部・中部・下部などさまざまであるが、坑底直上にあるものは非常に少ない。副葬品はほとんどないが、P-51からは土器2個体・錐状鉄製品が出土している。楕円形は10基ほどで、P-31は推定深さ60cm、四隅に柱穴が検出された。長方形は15基あり、長径120～180cm、短径80～100cmが主体で、長軸方向は北西-南東と北東-南西がある。副葬品は検出されていない。円形・楕円形のは調査区南半に分布し、西側の段丘縁辺に沿って高密度である。長方形のものは調査区北半に南西から北東に向かって列をなすように分布している。小ピットは2×3mと3×3mの四本柱の建物を構成する柱穴で、擦文文化期のもものとみられる。柱材は直径10cm程度で、先端が平坦である。焼土は多くがⅡ層の上部から検出され、調査区北半に偏在することから擦文文化期に形成されたと考えられる。

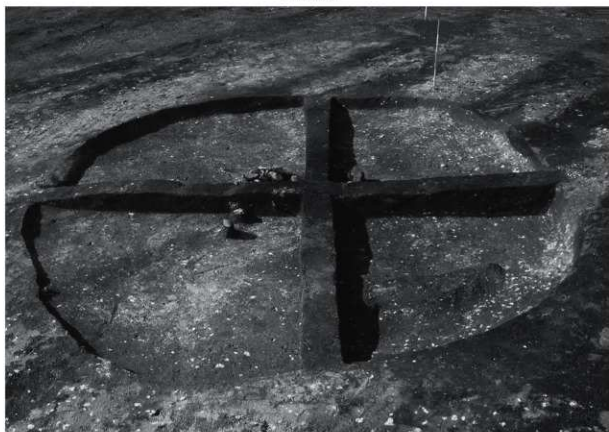
遺物は、南側は北大式期前半期、北側は擦文文化期前半期が主体で、全体で約2万点出している。



遺構位置図



調査状況



擦文文化期竪穴住居跡 (H-2)



擦文文化期竪穴住居跡 (H-3)



外柱穴 (H-3)



擦文文化期掘立柱建物跡柱穴 (SP-4)



彌文文化期土坑 (P-127)



縄文時代土坑 (P-31)



統繩文時代土坑 (P-125)



統繩文時代土坑 (P-133)



統繩文時代土坑 (P-51)



統繩文時代土坑 (P-100) 樹皮檢出狀況



統繩文時代土坑 (P-163)

厚真町 オニキシベ1遺跡 (J-13-14)

事業名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道胆振総合振興局

所在地：勇払郡厚真町字幌内409-1ほか

調査面積：10,566㎡

調査期間：平成24年5月16日～11月9日

調査員：村田 大、越田雅司、愛場和人、富永勝也、渡井 暁

調査の概要

遺跡は厚真市街から北東へ約12km、厚真川支流の鬼岸辺川右岸に立地する。調査区は北側の山地斜面から続く、扇状地・崖錐に起因する緩斜面に位置する。標高は約62～70mである。調査区北東部から中央部へかけては沢状地形がみられる。「オニキシベ」とは、アイヌ語の「入り口で木を削りつけているもの」が語源であるという説があり、「オヒヨウニレより樹皮を剥ぎ採る場所」を意味する(厚真村1956)。

基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：樽前bテフラ層、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：樽前cテフラ層、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前dテフラ層、Ⅷ層：黄褐色ロームである。調査区東側では樽前dテフラの再堆積層が広くみられた。今回の調査は試掘調査の結果からⅣ層までを重機で除去し、Ⅴ層以下について行った。

遺構と遺物

検出した遺構は竪穴住居跡5軒、土坑9基、Tピット13基、石組炉4か所、小柱穴1か所、集石1か所である。時期は縄文時代中期後半から後期初頭が主体となる。

竪穴住居跡は、調査区南西側の標高65m程の台地縁辺に分布する。平面形は楕円形や3m未満の小型円形で、H-1では先端部ピットが確認されている。石組炉は、長方形や円形に石が組まれており、焼土が検出されないものが多い。時期は、周辺の遺物から縄文時代後期初頭と考えられる。

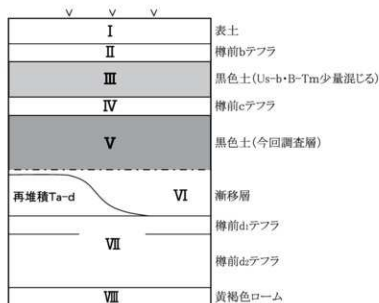
土坑は、土坑墓(P-5)や貯蔵穴(P-6・7)の可能性のあるものがある。P-5は平面形が長径0.8mの楕円形で、覆土下位から長さ7cmを超える蛇紋岩製の玉が出土している。

Tピットは沢状地形付近に多く分布し、平面形が溝状のものと小判形で坑底に杭列がみられるものがある。

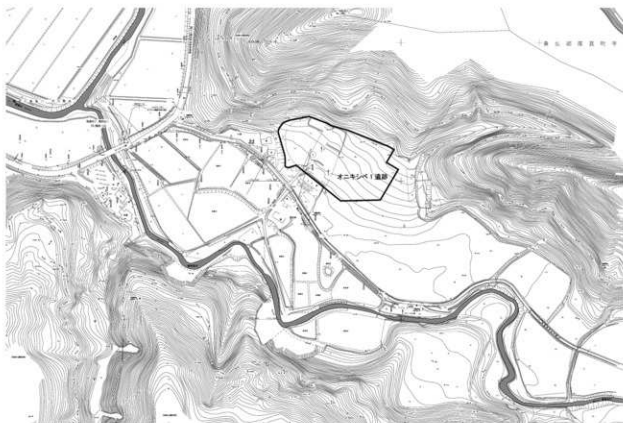
遺物は、土器や石器など約45,000点が出土した。

土器は縄文時代中期中葉から後期初頭のものが多いが、他に早期の東鋼路Ⅳ式土器、前期の静内中野式土器がある。

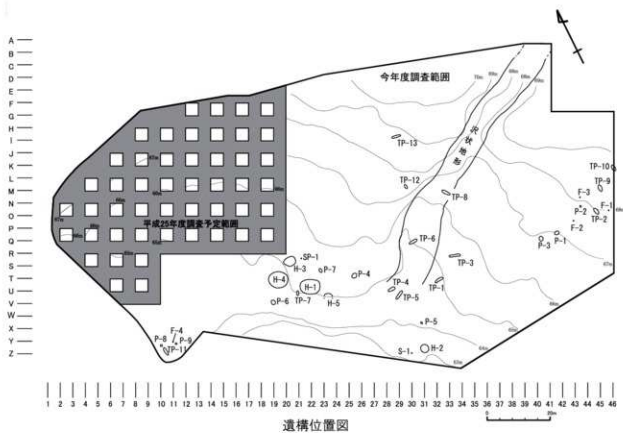
石器は剥片石器では石鏃・石槍が多く、礫石器では砂岩製の砥石・台石が多い。



基本層序模式図



周辺の地形と遺跡の位置



遺構位置図



調査区全景



調査風景



竪穴住居跡（H-1）遺物出土状況



竪穴住居跡（H-2）遺物出土状況



土坑（P-4）遺物出土状況



土坑（P-5）玉出土状況



土坑（P-5）玉出土状況アップ



石組炉（F-2）遺物出土状況



Tピット（TP-3）調査状況



Tピット（TP-10）杭穴検出状況

厚真町 朝日遺跡 (J-13-3)

事業名：道道上幌内早来停車場線特改1種工事(道州)埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道胆振総合振興局

所在地：勇払郡厚真町字朝日209-1ほか

調査面積：1,760㎡

調査期間：平成24年8月20日～11月9日、平成25年1月30日～2月1日

調査員：村田 大、越田雅司、富永勝也、吉田裕史洋

調査の概要

遺跡は厚真市街地から北東へ約2.5km、厚真川中流域右岸の丘陵からのびる緩斜面に位置する。調査区の標高は約22～26mである。

この地域は地元では通称「ガンケ」と呼ばれ、明治38年の振老用水路の設置、大正2年の早来・厚真軌道敷設工事など、古くから多数の工事が行われてきた場所である。大正5年には土偶数点が表採され、大正9年の厚真・幌内間森林軌道施設工事や大正12年の村有道路設置等の工事の際にも度々遺物が出土しており、厚真町内でも有数の包蔵地として認識されていた。初の現地調査は昭和30年に北海道大学教授・児玉作左衛門の指導のもと、亀井喜久太郎を中心とする厚真村郷土史研究会により行なわれた。翌昭和31年には、大正5年に表採された土偶が亀井により「厚真出土の土偶」として『先史時代』3で紹介されている。またこの土偶は現在「北海道大学付属図書館 北方資料データベース」にて写真公開されている。

基本層序は上位からⅠ層：現地表土、Ⅱ層：樽前bテフラ層(T a-b 1667年)、Ⅲ層：第Ⅰ黒色土、Ⅳ層：樽前cテフラ層(T a-c 約2,000年前)、Ⅴ層：第Ⅱ黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前dテフラ層(T a-d 約8,000年前)である。遺物包含層は主にⅤ層で、縄文時代晩期が主体である。

またⅤ層上位付近には主にシカとみられる焼骨片を多く含む(「土壌調査ハンドブック」面積割合の密度にして平均7%)層厚約15～20cmの層が堆積していた。骨片の中にはイノシシの骨も一部混じっており、堆積状況から盛土遺構とは趣を異とする、縄文時代晩期の「送り場」的様相を呈していると考えられる。この層の下位で検出した縄文時代晩期の土坑には人骨が残ることから、一帯は内陸部の貝塚的な状況を示しているともいえる。

遺構と遺物

今年度の調査では縄文時代晩期の土坑62基、続縄文時代(北大式期)の土坑7基、Tピット2基、焼土46か所、遺物集中2か所、炭化材・骨片集中1か所を検出した。

北大式期の土坑からは青色のガラス玉、管状の素材をスライスした石製のビーズ、鉄製品(刀子等)が出土している。縄文時代晩期の土坑62基中23基に人骨が残存していた。この中には8～11体の人骨が残っていた合葬墓例が1基、副葬品にヒスイ製の勾玉を首飾りに装着していた例が1基、漆塗の腕輪を装着した例が2基みられた。出土した人骨は、続縄文時代北大期のものを含めると最大33体にのぼる。

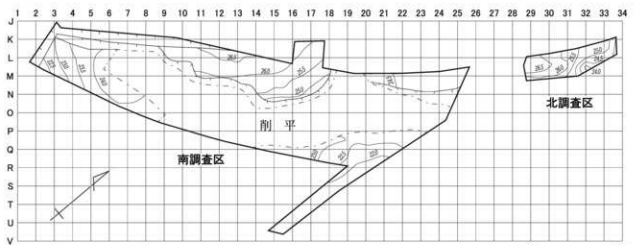
遺物は土器・石器約30万点が出土した。土器は縄文時代晩期のものが主体で、調査区全体に細かく割れた状態で石器類や獣骨とともに出土した。また一個体が潰れた状態で出土する例もみられた。搬入品と考えられる大洞C2式の注口土器やクマ面付土器片も出土している。

石器は、石鏃が遺構や包含層から多く出土することが調査中から確認され、剥片石器は黒曜石、チャート、メノウを素材としている。石斧の素材には主に日高地方の通称「背トラ石」が用いられている。

この他に包含層からは、土偶や耳飾りなどの土製品、石製品(石棒)、コハク製の玉やヒスイ製の勾玉などの玉類、獣骨片・鹿角、江戸時代(幕末)の古銭(文久永寶)が出土している。



遺跡位置図



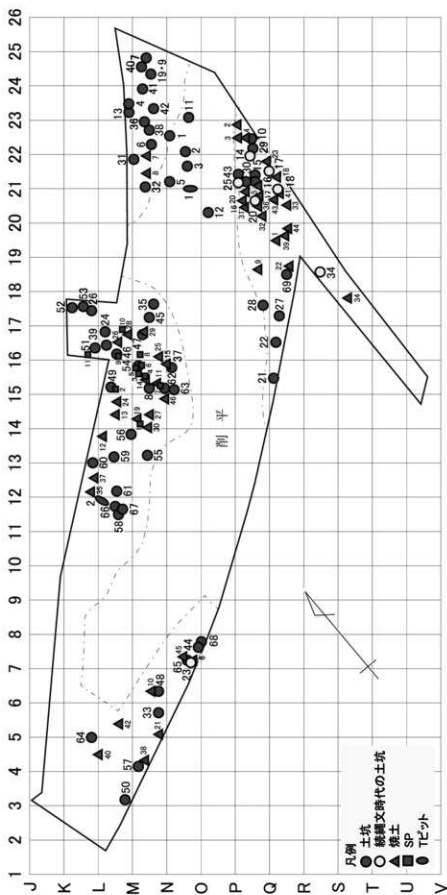
調査区設定図および地形図 (V層上面)



南調査区



北調査区



南調査区遺構位置図



P-6 人骨検出状況



P-6 頭部



P-2 頭部



P-2 人骨検出状況



P-47 人骨、石斧出土状况



P-36 人骨、勾玉出土状况



P-36 勾玉



P-18 縄文時代の墓



P-18 片口土器



P20・21区 遺物出土状況（獣骨類）



P-69 合葬墓

せたな町 都遺跡 (C-06-10)

事業名：道道北檜山大成線一括交付金B-535(地方道)工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道渡島総合振興局

所在地：久遠郡せたな町大成区上浦175-3番地外

調査面積：2,895㎡

調査期間：平成24年7月5日～11月9日

調査員：笠原 興、新家水奈、佐藤 剛

調査の概要

遺跡はせたな町大成区の市街地から北西側に直線距離で約0.7kmに位置する。標高26～30mの海成段丘上に立地し、上古丹川の河口部の左岸にある。調査区は日本海に直接注ぐ笠島の沢川の左岸に面する。

基本土層はⅠ層：表土・耕作土、Ⅱ層：黒褐色土・暗褐色土(遺物包含層)、Ⅲ層：漸移層、Ⅳ層：褐色土である。遺構の落ち込みや風倒木痕では噴出起源の不明な2つの火山灰を検出した。

次年度以降、隣接する地区の現地調査を予定している。

遺構と遺物

遺構は竪穴住居跡11軒、土坑32基、柱穴状の小土坑57基、石組炉9か所、焼土8か所、配石・集石4か所、遺物集中3か所、盛土遺構1か所を検出した。これらはすべて縄文時代中期後半の半ばから後期前葉の時期の遺構である。遺物は土器・石器等約160,000点、そのうち盛土遺構から約120,000点、包含層から約40,000点が出土した。

竪穴住居跡は調査区の北東から北西側に位置し、笠島の沢川に面して立地している。調査区の中央から西側の住居跡同士は密に分布しているが、切り合い関係はみられない。

住居跡の平面形は卵形や多角形、隅丸の長方形を基調とするもの、不明なものがある。付属の施設では、炉跡・柱穴を確認している。炉跡は中央から片寄るものが多く、石組炉と地床炉がある。詳細な時期は今後の検討によるが、盛土遺構よりも新しいもの(H-7)と古いもの(H-11)がある。

土坑もほとんどが調査区西側の笠島の沢川沿いに位置している。そのなかでも特に海側に密に分布しており、切り合い関係がみられるものがある。土坑内には直径15～20cm程度の小礫・中礫を数個配置するものが多い。

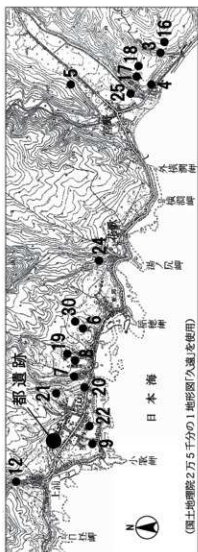
柱穴状の小土坑は調査区の北西側、盛土遺構の北側を中心に分布している。ほとんどのものが覆土に直径0.5～2cm程度の小礫が充填されている。

石組炉と焼土、配石・集石、遺物集中は包含層と盛土遺構内にみられる。石組炉と焼土の多くは屋外炉と考えられる。配石・集石と遺物集中は30～50cm程度にまとまる小規模なものである。

盛土遺構は調査区の南東側に位置している。笠島の沢川に面して立地する竪穴住居跡の外側に沿って調査区外も含めて帯状に分布している。土性や分布範囲の違いなどの特徴から、M1～M5層に分けた。また、盛土遺構の周辺や調査区内では盛土遺構と同じ時期と考えられる土地の改変が行われている。

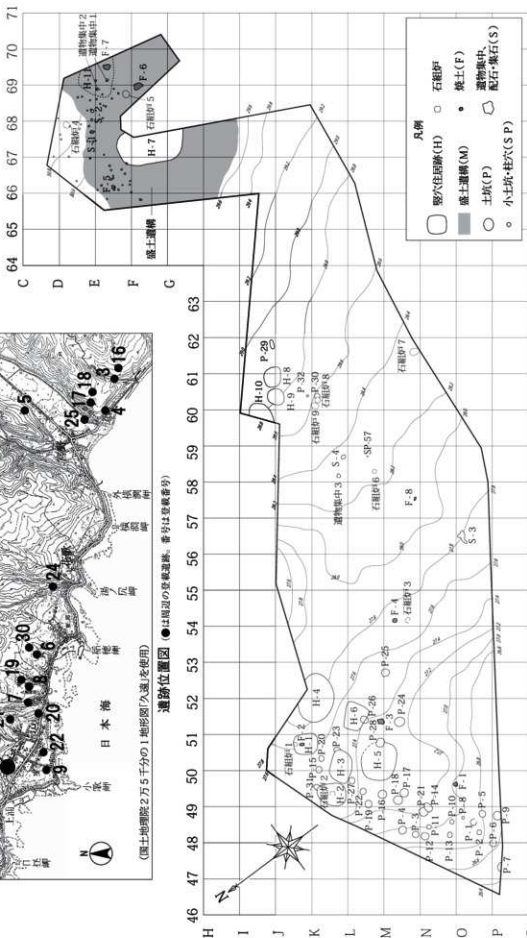
土器は縄文時代後期前葉の涌元式・トリサキ式の土器が多い。また縄文時代中期後半の中茶路式土器が調査区の中央からわずかに出土した。

石器は剥片石器では石鏃が多く、礫石器類では扁平打製石器と台石・石皿が多くみられた。剥片石器に用いられている石材は頁岩が多いが、黒曜石も渡島・松山地域としては比較的多くみられた。



(国土地理院2万5千分の1地形図(久遠)を使用)

遺跡位置図 (●は周辺の登録遺跡、番号は登録番号)



調査範囲と遺構位置図



H-4 完掘



P-14 (左)・21 遺物出土状況



盛土遺構M5層 遺物出土状況



盛土遺構M3層 遺物出土状況

北斗市 当別川左岸遺跡 (B-06-42)

事業名：高規格幹線道路南館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査 (釜谷8遺跡外)

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所在地：北斗市当別552-3-553-19

調査面積：2,442㎡

調査期間：平成24年8月1日～10月31日

調査員：立川トマス、佐藤和雄、奥山さとみ

調査の概要

遺跡はJR渡島当別駅から北東へ約2.5km、茂辺地川と当別川に挟まれた海岸段丘上に立地する。調査区は北から南に緩やかに傾斜しており、標高は69～73mである。

今年度の調査は、昨年度調査範囲の南東側にあたる海側部分と旧工事用道路下部分の2,442㎡についてA・B・Cの3つの調査区に分けて行った。

基本土層は、I層：表土・耕作土、II層：黒色土 (B-Tmを含む)、III層：暗褐色土、IV層：黒褐色土、V層：褐色土 (漸移層)、VI層：黄褐色土 (ローム) である。主にII層・III層・IV層から縄文時代の遺構・遺物を検出した。

遺構と遺物

遺構は、竪穴住居跡4軒 (H-1～4)、土坑12基 (P-8～19)、焼土6か所 (F-1～6)、礫集中2か所 (S-1・2) を検出した。

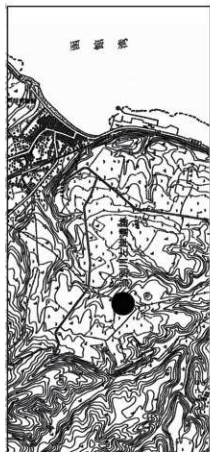
A地区では、縄文時代中期と思われる竪穴住居跡1軒 (H-1)、土坑2基 (P-11・13)、焼土3か所 (F-2～4) を検出した。竪穴住居跡の形状は卵形である。床面中央付近から地床炉が検出され、先端ビット・周溝・床面に柱穴が設けられている。H-1の地床炉付近からは土坑 (P-11) を検出した。P-11は、H-1を切って構築されている。時期は遺物が出土していないため特定できないが、周囲からは縄文時代後期の土器が出土している。

B・C地区では、竪穴住居跡3軒 (H-2～4)、土坑10基 (P-8～10・12・14～19)、焼土3か所 (F-1・5・6)、集石2か所 (S-1・2) を検出した。竪穴住居跡は、いずれも縄文時代中期のもので卵形である。土坑は縄文時代中期～後期のものである。また、H-3・4、P-12・14～16、F-5、集石2か所は重複しており、検出状況からこの中でH-4が最も古い遺構であることを確認している。

遺物は、土器約17,000点、石器等約3,000点が出土している。

A地区から出土した土器は、縄文時代中期～後期の円筒土器上層a・b式、見晴町式、大安在B式、ノダツブⅡ式などがある。石器は、石鏃・つまみ付きナイフ・スクレイパーなどの剥片石器、たたき石・すり石・台石などの礫石器が出土した。

B・C地区から出土した土器は、縄文時代中期～後期の円筒土器上層a・b式や見晴町式、トリサキ式などがある。石器は、スクレイパー・つまみ付きナイフなどの剥片石器、たたき石・すり石・台石・扁平打製石器などの礫石器、頁岩製の石核が出土した。



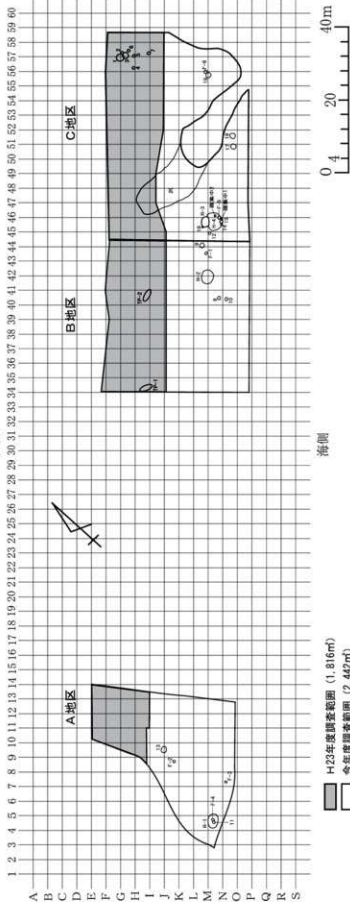
遺跡位置図 (国土院院2万5千分の1地形図「灰田池」を使用)

土層注記

- I: 表土・耕作土
- II: 黒色土 (B-Tmを含む)
- III: 暗褐色土
- IV: 黒褐色土
- V: 褐色土 (漸移層)
- VI: 黄褐色土 (ローム)

I
II
III
IV
V
VI

山側



海側

遺跡位置図



A地区 調査状況



A地区 H-1 完掘



B地区 H-2 完掘



P-9 遺物出土状況



P-9 完掘



C地区 調査状況



C地区 P-17 完掘



C地区 P-18 完掘



C地区 土器出土状況 (P-19)



C地区 P-19 完掘

北斗市 押上1遺跡 (B-06-73)

事業名：北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局

整理期間：平成24年5月7日～11月9日（現地一次整理）

調査員：中山昭大、福井淳一

整理の概要

平成22・23年度に現地調査を行った。遺物は一部を除き、未水洗のまま現地に残してあったもので、収納コンテナに換算して土器147箱、石器52箱、礫267箱の遺物を水洗し、分類、台帳・カード作成、注記作業を行った。土器はごくわずかに縄文時代中期の資料（円筒土器上層式）があるほかは、そのほとんどが、縄文時代後期初頭の天祐寺式に相当するものである。なかには東北地方の影響が伺える沈線文の資料もある。掌に収まるほどの大きさの棒状礫の先端から半ばまでの部分に、アスファルトが付着したものがあつた。また、焼土等の遺構から採集した24箱分の土壌については、フローテーション・マシンを用い水洗・選別作業を行った。2か年の調査で出土した遺物数は、土製品・焼成粘土塊を含めた土器122,588点、石製品を含めた石器37,578点、礫6,952点、合計167,119点である。

福島町 館崎遺跡 (B-03-2)

事業名：北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局

整理期間：平成24年5月7日～11月9日（現地一次整理）

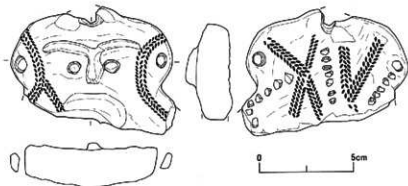
調査員：遠藤香澄、影浦 寛

整理の概要

平成21～23年度に現地調査を行った。平成23年度出土遺物のうち、土器のほぼ半数と石器・礫が未水洗であった。これら収納コンテナに換算して土器351箱、石器53箱、礫135箱の遺物を水洗し、分類、カード・台帳作成後、注記作業を行った。板状土偶の破片があらたに10点見つかり、全体で30点以上となったほか、円盤状土製品も多数追加確認された。礫の中には平成23年度に出土した「岩偶」とほぼ同じ大きさの縦長台形状の扁平な凝灰岩があつた。横幅はやや狭いものの、側縁に整形が認められる点が注目される。また、江別センターでは平成23年度出土遺物の一次整理（カード・台帳作成、注記）と二次整理作業も並行して行っている。平成21・22年度出土土器の接合・復元作業はほぼ終了し、これまで650個体が復元できた。土器・石器・骨角器の実測、データ処理も順次進めている。

3か年の調査で出土した遺物数は土器911,559点、土製品748点、石製品を含む石器203,556点、礫44,463点、合計1,160,326点である。

黒曜石製石器20点の原材料産地分析を行ったところ、2点は本州産であるとされた。1点が青森県の出来島・鶴ヶ坂で、もう1点が長野県観音沢である。長野県産黒曜石が確認された例としては、最も北に位置するとみられる。



館崎遺跡出土の土偶（縄文時代中期）



越冬遺物乾燥作業



館崎遺跡出土 石冠様石器・側縁有溝石器



押上1遺跡出土 青亀刀形石器

木古内町 釜谷 8 遺跡 (B-05-51)

事業名：高規格幹線道路兩館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（釜谷 8 遺跡外）

委託者：国土交通省北海道開発局兩館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字釜谷260-4～260-34

調査面積：8,414㎡

調査期間：平成24年5月7日～10月31日

調査員：土肥研品、袖岡淳子、阿部明義、立田 理

調査の概要

遺跡は、J R釜谷駅の北方1.5km、津軽海峡に面する海岸線から1km程内陸に位置する。標高は81～85mで、遺跡の北側には頁岩を産する大釜谷川の支流、大坪沢川が流れており、遺跡はその右岸にあたる。

調査は昨年度からの継続となる。昨年度は786㎡のトレンチを主とした調査を行った。その結果、縄文時代早期貝殻文土器、フレイクなどの遺物が漸移層付近から出土した。今年度は遺構確認区域1,380㎡を含む8,414㎡を調査した。

基本土層は、Ⅰ層：耕作土、Ⅱ層：黒色・暗褐色土～漸移層、Ⅲ層：黄褐色土である。Ⅱ層としたうち黒色土と暗褐色土は調査区内で厚さにばらつきがあり、風倒木のくぼみなどに顕著に残っている。厚い部分では上部に白頭山-苫小牧火山灰（B-Tm）の可能性のある火山灰が認められる。遺物は主にⅡ層の暗褐色土と漸移層から出土している。

遺構と遺物

遺構は、昨年度と合わせ竪穴住居跡2軒、土坑27基、焼土65か所、Tピット3基、柱穴状小ピット15基、フレイク・チップ集中域36か所を検出している。

住居跡2軒とフラスコ状土坑は、調査区南側のミヤノ沢川源頭部に沿ってややまとまっており、出土遺物の多くが縄文時代後期前葉のものとみられる。これに対し調査区北側の大坪沢川沿いには、フレイク・チップ集中域が多く見つかっており、ほとんどが縄文時代早期のものと推測される。

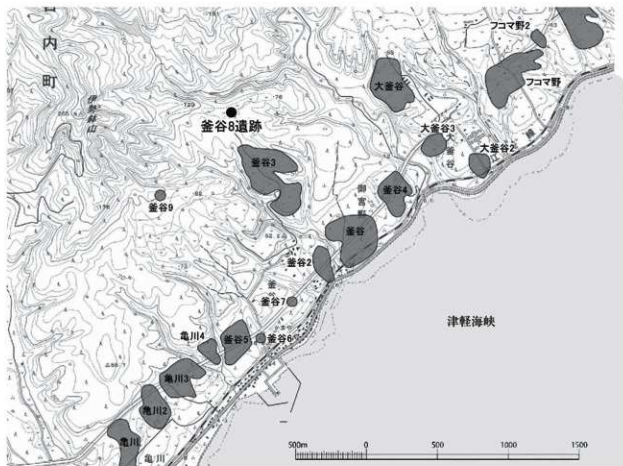
また調査区の中央～西部にかけて、平面形が隅丸方形となる土坑を6基検出している（写真KP-19参照）。検出面からの深さは1.5m前後で、土層は自然堆積と崩落堆積を繰り返しており、規格性の高いものである。重複関係からフラスコ状土坑より古いとみられるが、出土遺物がないため詳細は不明である。

遺物は総計で約60,000点出土した。内訳は土器が8,000点、石器等が52,000点である。

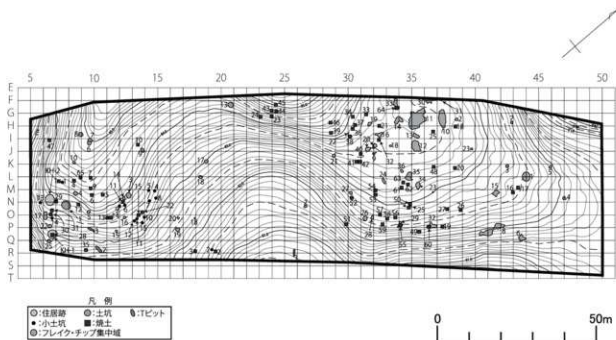
土器には縄文時代早期の貝殻文土器が約1,800点ある。口縁に爪形文を配し、尖底の器形を呈する七飯町国立療養所裏遺跡のⅠ群土器・ノダツプⅠ式とみられるものである。最も多いのは縄文時代後期前葉の天祐寺～涌元式にかけてで、計約6,500点である。ほかに縄文時代早期後半、中期前葉の円筒土器上層式、後期中葉、晩期のものもわずかに出土している。

剥片石器には石鏃、石槍、石錐、スクレイパー、両面調整石器が計約400点ある。このほか石器等にはRフレイク、Uフレイク、石核などがある。フレイク・チップが最も多く約50,000点出土している。剥片石器の中では、筧状に加工されたスクレイパーが約230点と突出している。その大多数は、素材剥片の縁辺をそのまま刃部とするいわゆる「トランシェ様石器」である。中には加工途中のものや加工時に折れたとみられるものも含まれており、縄文時代早期のフレイク・チップ集中域に伴い出土しているものが多いことから、本遺跡内で加工、製作された可能性が高い。

礫石器は、多い順にすり石、たたき石、石皿などが出土している。すり石のほとんどは流紋岩～安山岩質の火成岩で、細長かつ断面形が三角形の礫が用いられ、稜線を使用面とするものである。



遺跡位置図（この図は、国土院発行1:25,000地形図「当別」に加筆したものである）



遺構位置図



調査区北側の調査状況



調査区南西部の状況



KP-6・7、KP-5（手前）調査状況



KP-22 土層断面



KP-19 完掘



FC-9 石器類出土状況



FC-23 遺物出土状況



遺物出土状況 (FC-11周辺)

木古内町 大平4遺跡 (B-05-29)

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（釜谷8遺跡外）

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字大平60-33～60-43

調査面積：7,054㎡

調査期間：平成24年5月7日～10月31日

調査員：熊谷仁志、立川トマス、谷島由貴、酒井秀治、佐藤和雄、奥山さとみ

調査の概要

遺跡はJR木古内駅から北東へ約2km、孫七川左岸の海岸段丘上に位置する。地形は北から南へ緩やかに傾斜しており、調査範囲の標高は10～13mである。

平成21・22年度に北海道新幹線建設事業で発掘調査が行われ、今回で3度目の調査となる。

基本土層は、Ⅰ層：表土・耕作土、Ⅱ層：黒色土、Ⅲ層：暗褐色土（漸移層）、Ⅳ層：褐色シルト質粘土である。主にⅡ層から縄文時代の遺構・遺物を検出した。

遺構と遺物

遺構は竪穴住居跡9軒、土坑7基、Tピット1基、焼土12か所、剥片集中8か所を検出した。

竪穴住居跡は、いずれも縄文時代中期後半の大安在B式～ノダップⅡ式期である。形状は卵形で、すべてに先端ピットがあり、H-11を除き周溝が検出された。また複数の周溝がめぐるもの（H-3）もあり、建て替えを窺わせるものも認められた。炉跡は、地床炉のもの（H-4・5・6）、石組炉のもの（H-3・7・8・9・10）、不明（H-11）がある。最も大きな竪穴住居跡（H-7）は、長軸10.6m、短軸4.0m、深さ0.8mの卵形である。床面に先端ピット・周溝・石組炉・柱穴・集石を確認している。石組炉は0.9m×0.7mの長方形で、炉石は37個埋設されていた。

土坑で時期が分かるものは、P-30・31・36の3基である。いずれも縄文時代中期である。また、P-35の時期は判断できないが、坑底から頁岩製のつまみ付きナイフが2点出土している。

剥片集中（FL-23）からは縄文時代前期の春日町式土器が出土している。

遺物は、土器が約3,000点、石器等が約73,000点出土している。土器は、縄文時代早期の東銅路Ⅵ式、同前期前半の春日町式、同中期の大安在B式～ノダップⅡ式、同後期の大津式～ウサクマイC式、同晩期末葉の土器が出土している。石器等は、石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・両面調整石器などの剥片石器、石斧・たたき石・すり石・扁平打製石器などの礫石器が出土している。剥片石器では頁岩製がほとんどを占め、黒曜石を利用したものはわずかである。

特徴的な遺物として凝灰岩製の三脚石器14点が、縄文時代中期後半の住居跡周辺から出土している。また、大津式の小型土器の底部に方形の沈線文が描かれているものも出土している。



遺跡位置図

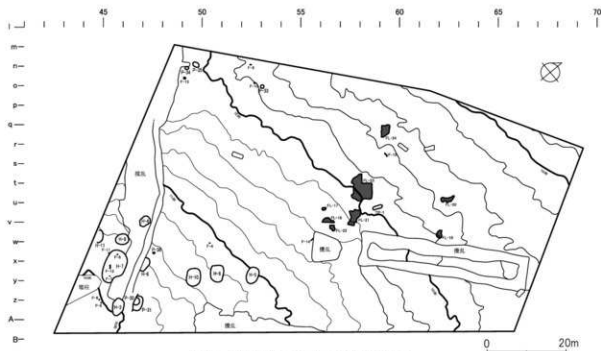
国土地理院発行の数値地図 25000(地図画像)「木古内」を使用

u54



土層注記

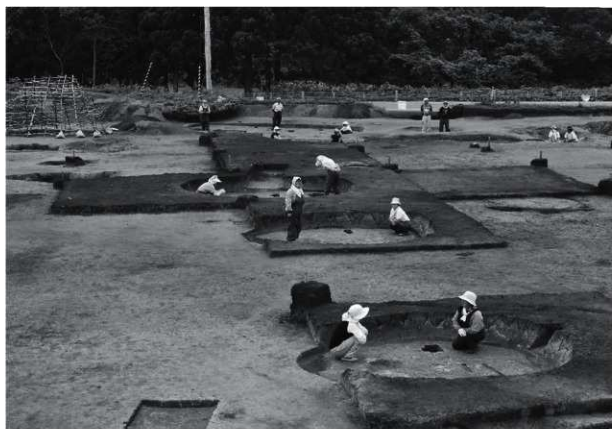
- I : 表土・攪乱
住居・耕作等により攪乱を受けたもの
- II : 黒色土 10YR2/1 かたくしまる 粘性ややあり
- III : 暗褐色土 10YR3/3 かたくしまる 粘性ややあり 漸移層
- IV : 褐色シルト質粘土 10YR4/6 かたくしまる 粘性ややあり



最終面地形測量図および遺構位置図



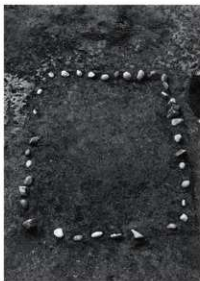
調査状況



竪穴住居跡



H-7 豎穴住居跡



H-7 石組炉



H-9 豎穴住居跡



H-5 豎穴住居跡



剥片集中 出土状況



土器 出土状況

3 現地研修会の報告

平成24年9月6日(木)・7日(金)の両日、登別市・厚真町・千歳市において、現地研修会を行った。

6日登別市での研修は北海道立埋蔵文化財センターの指定管理業務「市町村担当職員出前研修会」との合同開催である。今回の市町村担当職員出前研修会のテーマは、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群と近隣地域における出土資料の公開活用」とし、北海道と各市町での世界遺産登録や埋蔵文化財の活用、文化財保護意識の啓蒙の取り組みについて受講し研修を積むこととした。講義は登別市文化交流館カント・レラに会場を設けて行った。

最初の講義は北海道教育委員会主幹で縄文世界遺産推進室の長沼孝氏による「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界遺産登録への取組で、世界遺産とは何かという導入で始まり、縄文遺跡群登録取り組みの現状と展望が示された。イギリス等の世界文化遺産の実例も画像とともに教示された。次に伊達市噴火湾文化財研究所の菅野友哉氏による「史跡 北黄金貝塚」と、洞爺湖町教育委員会の角田隆志氏による「史跡 入江・高砂貝塚」では、世界遺産登録への取り組みを軸に調査や史跡整備、埋蔵文化財の普及活用など各地の活動が紹介された。登別市教育委員会の菅野修広氏による「登別市内の遺跡調査と出土資料の公開活用・普及活動」では、近隣市町が世界遺産登録への取り組みを行っている状況での登別市における埋蔵文化財の普及活用活動が紹介された。続いてカント・レラの見学を、展示の主旨や構成を含めた菅野氏の解説のもとに行い、研修を終了した。多忙な中、講義を担当して頂いた諸氏、とりわけ会場設定や講義・解説の対応をしていただいた登別市の菅野氏に深く感謝いたします。

7日は当センターの職員研修で、調査遺跡見学を主体に構成した。はじめに厚真町オニキシベ1遺跡を担当の村田課長の解説で見学した。厚幌ダム建設に伴う今後の調査についても説明があった。次に厚真町教育委員会が調査を担当するヲチャラセナイ遺跡・オニキシベ4遺跡・オニキシベ6遺跡に移動し、前者については乾哲也・天方博章両氏から、後二者については乾・奈良智法・荻野幸男の3氏から、各遺跡や厚真町を中心とした考古学上の交易ルートなどの説明があった。午後からは厚真町朝日遺跡へ移動し、担当の越田・富永両主査の案内で縄文時代晩期の遺構や過去の出土品を含めた遺物を見学した。その後、千歳市キウス11遺跡へ移動し、調査が始まったばかりの遺跡を担当の鈴木課長の解説で見学した。隣接した史跡キウス周堤墓群を見学した後、千歳市埋蔵文化財センターへ向かった。廃校を改装利用した同センターではセンター長の高橋理氏の案内で、各期に渡る出土遺物で構成された展示を見学した。見学の便を図り、解説をいただいた厚真町・千歳市の各氏に感謝いたします。

以下、研修会の日程を示す。

- 9月6日(木) J R登別駅前 集合
登別市文化交流館カント・レラ 講義・見学
むかわ町四季の館 情報交換会・宿泊
- 9月7日(金) 厚真町オニキシベ1遺跡見学(当センター調査遺跡)
厚真町ヲチャラセナイ遺跡・オニキシベ4遺跡・オニキシベ6遺跡見学
(厚真町教育委員会調査遺跡)
厚真町朝日遺跡見学(当センター調査遺跡)
千歳市キウス11遺跡見学(当センター調査遺跡)
千歳市キウス周堤墓群見学(史跡・世界遺産登録追加候補)
千歳市埋蔵文化財センター見学
J R札幌駅 解散



登別市文化交流館カント・レラでの講義



カント・レラ展示室にて



厚真町 オニキシベ1遺跡見学



厚真町 ヲチャラセナイ遺跡見学



厚真町 ヲチャラセナイ遺跡にて



厚真町 オニキシベ4遺跡見学



千歳市 キウス11遺跡見学



千歳市埋蔵文化財センターにて

4 協力活動及び研修

(1) 協力活動（日付は平成24年のもの）

ア 発掘現場見学

- *長沼町 幌内D遺跡
 - 5月23日 長沼町立南長沼小学校 体験発掘（22名）
 - 6月13日 長沼町立北長沼小学校 遺跡見学（16名）
- *厚真町 オニキシベ1遺跡・朝日遺跡
 - 8月26日 北海道考古学会 遺跡見学（40名）
- *厚真町 朝日遺跡
 - 10月4日 日胆地区博物館協会等連絡協議会 遺跡見学（15名）
- *せたな町 都遺跡
 - 9月12日 せたな町文化財保護審議委員会 遺跡見学（12名）
 - 10月13日 南北海道考古学情報交換会 遺跡見学（10名）
- *木古内町 大平4遺跡・札苅整理作業所
 - 6月25日 木古内町立木古内小学校 遺跡見学・作業所見学・遺物水洗体験（14名）
- *木古内町 大平4遺跡
 - 7月23日 秋田県大館市立釈迦内小学校 体験発掘（46名）
- *木古内町 釜谷8遺跡
 - 10月16日 北海道開発局函館開発建設部 函館道路事務所 体験発掘（5名）

イ 委員会等の会議

- *全国埋蔵文化財法人連絡協議会
 - 5月17日・18日 第1回役員会（福岡県北九州市 坂本（均）・中田）
 - 6月21日・22日 総会（千葉県千葉市ほか 坂本（均）・畑・中田・磯田）
 - 10月18日・19日 北海道・東北地区会議（福島県郡山市 中田・和田）
 - 11月8日・9日 研修会（富山県富山市ほか 小笠原・中村・徳田）
 - 12月6日・7日 第2回役員会（東京都 中田・和田）
- *網走市史跡最寄貝塚保存整備委員会
 - 2月2日 平成23年度第2回委員会（網走市 畑）
 - 10月25日 第1回委員会（網走市 畑）
- *洞爺湖町国指定史跡入江・高砂貝塚整備検討委員会
 - 2月27日・28日 史跡入江・高砂貝塚整備検討委員会（洞爺湖町 畑）
- *北海道アイヌ協会
 - 8月3日 北海道大学アイヌ納骨堂におけるイチャルバ（札幌市 三浦）
 - 10月5日 札幌医科大学収蔵アイヌ人骨・遺跡出土人骨イチャルバ（札幌市 三浦）
- *北海道文化財保護協会
 - 4月24日 第1回役員会（札幌市 千葉）
 - 6月9日 通常総会（札幌市 千葉）
 - 10月2日 第2回役員会（札幌市 千葉）

ウ 調査指導および講演会等の講師

*千歳市埋蔵文化財センター

1月29日 講演会「周堤墓とは何か」(千歳市 三浦)

*NPO法人三内丸山縄文発信の会

縄文の漆複製プロジェクト

2月11日 縄文の漆フォーラム (函館市 田口)

*長沼町教育委員会

3月2日・13日 発掘調査出土品展に伴う指導・取納片づけ作業 (長沼町 鈴木(宏))

*日本木材学会

3月18日 木質文化財研究会講演会

「北海道出土の木質文化財とその樹種-旧石器・縄文・続縄文」(江別市 三浦)

「北海道出土の木質文化財とその樹種-擦文文化・アイヌ文化・中近世」

(江別市 田口)

*北海道考古学会

5月12日 2012年度研究大会「アイヌ文化期の「集落」研究」

「発掘された千歳・恵庭両市域のコタン跡」(札幌市 三浦)

*女流書作家集団

6月10日 講演会「掘り出された北の歴史」(遠軽町 畑)

*NPOネットプロジェクトオホーツククラスター

6月30日 「地域の財を考える-遠岡栄治と北海道の旧石器文化-」(遠軽町 畑)

*千歳市埋蔵文化財センター

8月4日 文化財普及啓発事業体験学習会「石器をつくろう!」(千歳市 直江)

*せたな町教育委員会

11月3日～5日 大成町町民センター 町民文化祭(土器・石器等約40点、およびパネル展示)

(せたな町 笠原)

*本古内町教育委員会

11月1日 平成24年度公民館講座 本古内郷土史講座

「第2回本古内セミナー-新道4遺跡が注目される理由-」(本古内町 遠藤)

*千歳市埋蔵文化財センター

11月17日 千歳市文化財普及啓発事業公開講座

「キウス4遺跡の周堤墓と集落」(千歳市 阿部)

「周堤墓に残されたモノ」(千歳市 三浦)

*南北北海道考古学情報交換会

12月1日・2日(森町 立田・佐藤(剛)・奥山)

*北海道考古学会

12月22日 遺跡調査報告会(札幌市 佐藤(剛)・富永)

(2) 研修 (日付は平成24年のもの)

ア 外部研修

*文化庁

2月8日～10日 平成23年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会 (奈良県奈良市 倉橋)

9月5日～7日 第1回埋蔵文化財担当職員等講習会 (広島県福山市 菅野・佐藤 (龍))

*国立文化財機構奈良文化財研究所 (奈良県奈良市)

2月6日～10日 文化財担当者専門研修「保存科学Ⅲ (応急処置)」(影浦)

2月14日～22日 文化財担当者専門研修「地質環境調査課程」(福井)

10月2日～11日 文化財担当者専門研修「保存科学基礎Ⅰ (金属製遺物) 課程」(高橋)

12月14日～21日 文化財担当者専門研修「報告書作成課程」(渡井)

*全国埋蔵文化財法人連絡協議会

11月8日・9日 研修会 (富山県富山市 中村・小笠原・徳田)

*日本第四紀学会

8月20日～22日 2012大会 (埼玉県熊谷市 鈴木 (宏))

イ 内部研修

*平成24年度現地研修会

9月6日・7日 (登別市・厚真町・千歳市 16名)

*平成24年度発掘調査報告会

11月28日 (センター研修室)

5 平成24年度刊行報告書

第293集「木古内町 木古内 2 遺跡（2）」

北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書

第294集「木古内町 札苅 5 遺跡」

高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第295集「北斗市 館野 6 遺跡（1）」

高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第296集「江別市 対雁 2 遺跡（11）」

石狩川改修工事の内対雁築堤工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第297集「千歳市 祝梅川小野遺跡（2）・梅川 1 遺跡（2）」

道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書

第298集「長沼町 南六号川左岸遺跡」

道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書

第299集「千歳市 キウス 5 遺跡（10）」

道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書

第300集「千歳市 祝梅川上田遺跡（2）」

道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書

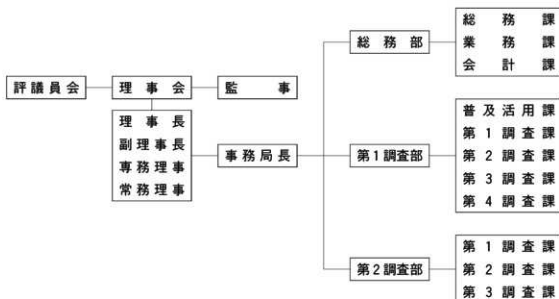
6 組織・機構

役員（平成24年6月8日現在）

理事長	坂本均	常勤
副理事長	畑宏明	非常勤
専務理事	中田仁	常勤
常務理事	千葉英一	常勤
理事	白杵勲	非常勤
理事	菊池俊彦	非常勤
理事	越田賢一郎	非常勤
理事	田端宏	非常勤
理事	本田優子	非常勤
理事	山田悟郎	非常勤
理事	山本伸弘	非常勤
監事	佐藤一夫	非常勤
監事	森重桶一	非常勤

評議員（平成24年4月1日現在）

評議員	氏家等	非常勤
評議員	遠藤龍敏	非常勤
評議員	川上淳	非常勤
評議員	木村方一	非常勤
評議員	佐藤俊和	非常勤
評議員	昌子守彦	非常勤
評議員	谷直人	非常勤
評議員	鶴丸俊明	非常勤
評議員	戸塚隆	非常勤
評議員	西幸隆	非常勤
評議員	松田光院	非常勤
評議員	横山健彦	非常勤



7 職 員 (平成24年6月11日現在)

事務局長 (兼務)	中 田 仁	業 務 課 長	菅 野 聡
総 務 部		主 査	小笠原 学
総 務 部 長	和 田 基 興	主 任	今 本 宏 信
総 務 課 長	葛 西 宏 昭	参 与	湯 田 俊 一 夫
主 査	小 杉 充 己	参 与	佐 藤 龍 京 一
参 与	前 田 克 博	参 与	德 田 千 秋 志
		計 課 長	中 村 貴
		主 査	

第1調査部

第1調査部長 (兼務)	千 葉 英 一
普及活用課長	鎌 田 望
主 査	藤 本 昌 子
主 査	倉 橋 直 孝
主 査	藤 井 浩 浩
第1調査課長	田 口 高 尚
主 任	吉 田 裕 史 洋
嘱 託	高 橋 美 鈴
第2調査課長	鈴 木 信 人
主 査	菊 池 慈 宏
主 査	鈴 末 光 正
主 査	芝 田 直 卓
主 任	山 中 文 雄
第3調査課長	土 肥 研 晶
主 査	皆 川 洋 一
主 査	袖 岡 淳 子
主 査	阿 部 明 義
主 査	立 田 理 興
第4調査課長	笠 原 興 一
主 査	佐 川 俊 水 奈
主 査	新 家 藤 剛
主 査	佐 藤 本 尚
主 任	坂 江 直 康

第2調査部

第2調査部長	三 浦 正 人
第1調査課長	遠 藤 山 香 澄
主 査	中 影 浦 大 覚
主 査	福 井 淳 一
主 任	柳 瀬 由 佳 志
第2調査課長	熊 谷 仁 志
主 査	立 川 マ ス 裕 史
主 任	谷 島 由 貴 治
主 任	酒 井 藤 和 雄
嘱 託	佐 藤 さ と み
第3調査課長	奥 村 田 大 司
主 査	越 田 雅 和 人
主 査	愛 場 良 成
主 査	広 泰 司 統
主 査	富 永 勝 也
嘱 託	渡 井 瞳

調 査 年 報 25

平成24年度

平成25年3月15日発行

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685-1
TEL 011-386-3231・FAX 011-386-3238
URL <http://www.domaibun.or.jp>
E-mail mail@domaibun.or.jp

印 刷 社会福祉法人 北海道リハビリ
〒061-1195 北広島市西の里507番地1
TEL 011-375-2116(代)・FAX 011-375-2115
